

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100289		
法人名	医療法人社団郁栄会		
事業所名	サンライズ楠野グループホーム		
所在地	熊本県熊本市北区楠野町1069-1		
自己評価作成日	令和3年 7月 27日	評価結果市町村報告日	令和3年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和3年 9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○かかりつけ医への受診と医療連携:隣に協力医療機関があり、入居者は職員付き添いで受診ができる。常勤の看護師や他の職員が入居者の変化や異常の早期発見に努め、協力医療機関と連携をとる体制を取っている。グループホーム内で点滴やインスリン注射の対応が出来る。又、御家族の思いを尊重し主治医と連携しながら看取り介護についても対応している。
 ○楽しみ事・気晴らしの支援:毎月の行事や誕生会等の行事を季節ごとに開催している。
 ○季節の行事や入居者の希望や状態に応じた調理法で提供できる。法人内の管理栄養士が献立を立てており、旬な食材やバランスの取れた食事をとる事が出来る。
 ○感染防止対策のもとでの面会や日常の様子を文書や広報紙を活用し御家族や親しい人との繋がりが途切れない様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るい陽射しが入る事業所を訪問すると、職員・入居者皆さんの笑顔と、季節を感じる事ができる折り紙や手作りの布小物が迎えてくださいます。入居者はトランプやゲーム等で一緒に過ごす時間もあれば、思い思いのくつろぎの場所で時を過ごす等、入居者それぞれの生活の様子がうかがえました。昨年今年と入居者の入れ替わりも見られましたが、一人ひとりを尊重し、それぞれに合わせた対応がみられる事業所です。昨年から感染症対策で研修開催が難しいと言われる中、事業所では職員研修・勉強会を継続して開催し、特に身体拘束をしないケアの実践に向けた研修には法人全体で取組む様子が確認できました。近年入居時の年齢が高齢化し、車いす等個々に応じたケアが必要とされていますが、「安心・楽しい・きれい」を感じることができる生活が営まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心」「楽しい」「きれい」の理念を入居者様やご家族・来訪者の方等、フロアの見やすい所へ掲げている。広報紙へも記載して御家族も共有できるものとしている。	職員の入職時には管理者より理念を伝え、地域や家族には運営会議や来訪を通じて伝えてきた。外部との交流が難しい現状、入居者の生活を守るための「安心」「きれい」はもちろんのこと、「食」を楽しむ等、理念を日常生活に取り入れたケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響により外部との接触は制限している。現時点では、ボランティア等の受け入れは中止している。	従来、散歩や行事、普段のお付き合い等で地域との関わりが見られる事業所であるが、昨年来難しいのが現状である。出来るだけの入居者家族等の面会受入れや隣接する病院受診時の関わり等、暮らしの中での付き合いの継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症の影響により地域との関わりは制限している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症の影響により地域運営推進会議の開催は中止している。御家族様・地域包括支援センター・民生委員・自治会へは書面にてホームの状況報告を行なっている。	昨年より運営推進会議は書面が中心となっており、入居者情報の他、職員研修や職員配置等、入居者に関わる事項を報告している。特に家族には来訪時に事業所の状況報告を行っている。会議開催に関わらず、地域役員の方々の訪問もあり、地域との関わりも継続している。	会議の開催が難しい状況が続く中、入居者家族にははできるだけ直接報告を行う等の工夫がされています。今後会議が再開される際には、多方面から意向を得る機会作りとなることが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの調査やアンケートには必ず回答して連携を図っている。新型コロナウイルス感染症対策に関しても、市からの通達に沿った対策を行い、利用者の安全確保を第一に対応している。	昨年からの感染症対策等で研修等の機会は減ってきているが、事業所での取り組み等での関わりが増えた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回勉強会を行い、スピーチロックも含め拘束をしないケアに努めている。ホームは安心安全の為セキュリティシステムを導入しているが、入居時に御家族へ説明し同意を得ている。入居者様の思いに沿い外出の支援や外気を感じ事が出来る様にしている。	法人内の委員会設置もあり、年2回の勉強会を行っている。法人全体で「身体拘束は高齢者虐待という認識のもと慎重な対応が必要である」の考えのもと、虐待のない施設であり続けるための項目が明確にされ、職員間で共有し取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での勉強会を行い虐待防止に努めている。慣れや多忙で見過ごす事がない様に注意を払い、不適切なケアに至らないようにしている。		

グループホームサンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する事業所内勉強会を実施し、日頃より入居者様の権利(意思決定・尊厳)が侵害されていないか?意識しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し、見学も含め事前に訪問したり面接を行い、サービス内容・契約内容の説明を行い理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に入居者様の状況を伝え、意見や要望を聴いている。遠方の御家族へは電話や写真・年6回発行の広報紙を送り、状況を報告している。いただいた意見・要望・思いは運営面で活かす様にしている。	感染症対策を行いながら出来るだけ家族の面会も受入れ、電話等も用い、家族との関わり作りに務め、意見を得ることに務めている。例年運営推進会議開催には全家族へ参加を呼びかけ、意見を出しやすい関係作りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度はコロナ対策の為に規模を縮小して職員会議を開催しているが、日々の業務の中で職員の意見・要望を聞き運営面へ反映している。	職員会議は効率化を図り短時間で行う等工夫し開催している。入居者の状況から今年度は日々の業務の中でカンファレンスを行う機会が多くあったため、職員間で意見を出し合う機会も多く見られた。	職員面談でも、職員同士意見を出し合い、管理者へ意見を述べる機会が日々見られる様子が聞かれました。職員の働きやすい職場作りを行う全体的な取組みが見られます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得や家庭の事情・病気療養等の勤務調整や療養後の職場復帰時には無理のない様な勤務体制にしている。又、職員個々の事情要望を把握し、やりがいや向上心を持てる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験・力量等を見て法人内の委員会・介護部会・主任研修・管理者研修へ参加している。また、ホーム内での勉強会にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症の影響で同業者との交流は制限している。		

グループホームサンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に病院・施設へ訪問したり見学に来て頂き、生活歴・既往症・趣味を伺う様にしている。入居に至る迄の間は納得される迄見学や相談を受ける等、安心して入居後の生活を送って頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず見学・面談と何度か来て頂き、ホームの生活を見て頂いている。その中で御家族の思い・要望等を伺い、信頼関係を築く様にしている。又、入居後もコミュニケーションを多く持ち、本人が安心して暮らせる様に関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族・入居者様の意見・思いを聴き、その時必要とされている支援は何かを見極め、緊急性・必要性を考慮し主治医・ケアマネジャー等と相談して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、本人の出来る事、出来ない事、好まれる事は何か等の情報を職員間で共有し家事活動やレクリエーション活動の中で支え合う関係が出来ている。職員も入居者様から励ましや教えられたり、感動、感謝の気持ちを頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	玄関や距離を置いての面会を支援している。面会時には必ず状況報告や要望はないか、御家族とのズレはないか確認する様にしている。遠方の御家族には電話や書面で報告している。御家族の思いは職員間でも共有し共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症対策の為、馴染みの方の来訪時は玄関や窓越し、距離を置きながらの面会を行ない、これ迄の関係が途切れない様に支援している。	感染症対策の観点から、昨年より面会や来訪への配慮を重ね受入れてきた。運営推進会議の開催が難しい状況においても地域役員の来訪が継続している。現状では家族との関係支援が主であるが、日常生活の中でのなじみの関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で入居者様同士が円滑に関われる様に職員が間に入り関係作りをしている。レクリエーションや家事活動・食事の際等テーブル席の配置に配慮し入居者様同士が協力し合ったり出来る様に支援している。		

グループホームサンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も施設や病院へ面会に行き、顔を合わせている。又、御家族からの相談等にも応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話や動作に本人の思いが出ていたと考え、その事に気付く様に記録に残している。思いを様々な視点から捉え、入居者様の気持ちに沿える様に努めている。	従来より職員から入居者への声掛けを大切にしていたケアが行われている。新たな入居者を迎えたこと、昨年から事業所内で過ごす時間が増えたこと等より入居者と職員とで「話す」機会が増え、入居者の思いや意向の把握にも繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に御家族・ケアマネジャー等関係機関から本人に関する情報を集め、これ迄の生活歴等の把握に努めている。入居後も入居者様との会話の中や御家族からの情報を記録に残し情報を共有する様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これ迄の人生の一片を語られたり、思い出話をされたりするので、一つの言葉や言動を大切にしていかに気付く様にしている。又、定期的なアセスメントを取り現状の把握と変化に気付く様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・御家族の意向や思いを把握・共有し、職員間でも意見を出し合い介護計画の作成・サービスの実施へ繋げている。又、職員間で定期的な介護計画の評価・見直しを行い現状に即した介護計画の作成に努めている。	入居1ヶ月目に入居者・家族・関係機関の意向や思い、意見から「入居暫定プラン」を作成している。入居後は日々のケアプラン実施・評価に加え居室担当者より毎月の状況を記入し、定期的な見直しを行っている。入居者の症状によって随時カンファレンスを行う等で現状に即した介護計画を作成し共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・健康観察・病院受診・ケアの実践や気づき等を個人別に記録し情報の共有に努め、ケアプランの見直しや作成に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、御家族の状況に応じて通院や送迎、日用品の購入支援等を行なっている。又、医療機関と連携を図りながら点滴・インスリン注射・膀胱留置カテーテル等の支援が出来る。入居者様の状態で必要な福祉用具等を検討し、近隣の福祉用具店へ相談する等柔軟に対応している。		

グループホームサンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これ迄、ホームの行事へ地域の民生委員・自治会の方に参加して頂いており、入居者様との関わりの中で自治会の方が季節の花苗を届けて下さったり、地域の美容室から髪カットに来て頂く等楽しみある暮らしを送れる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を尊重しているが、入居時に協力医の説明も行い入居者様や御家族の希望するかかりつけ医としている。専門科は必要に応じ御家族と一緒に受診する事も有るが、職員だけで受診した場合は御家族へ受診結果を必ず報告する様にしている。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、現状は協力医での定期受診がほとんどである。毎月の定期受診は職員同行であり、専門医受診は基本的に家族への協力を依頼している。歯科医の往診も受け入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調の変化に気付いたら、隣接の病院の看護師・医師へ相談報告を行い必要に応じ受診している。又、24時間看護師・医師と連絡が取れる為、適切な指示を受けたり受診が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と情報交換を行い、医師や病院関係者と連携をし退院後のケアの方針について御家族とも相談し必要な支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前や入居後にホームで出来る事、出来ない事を伝えたり、ケアプラン説明時や御家族面会時に状態を報告し、主治医・御家族と相談しながら方針を決め、支援を行い必要に応じて専門医や他の施設を紹介している。又、実際に終末を迎える時期となり、御家族がホームでの看取りを希望された時は、主治医・看護師・事業所職員・御家族と何度も相談を重ねながら取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に関する事業所の対応を説明し同意を得ている。実際にその時を迎えた際には都度家族・関係機関等と話し合いを重ね「終末期ケアプラン」を作成し、カンファレンスを重ねながら支援している。昨年から感染症対策も行いながら家族の訪問も受け入れ、共に連携しながら取り組みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や緊急連絡網等、隣接の病院との協力体制が出来ている。母体医院が隣にあり24時間、医師・看護師が対応可能である。急変時のマニュアルも整備しており、ホーム内の看護師による勉強会も実施して急変時に対応できる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度、消防訓練(昼・夜間想定・地震・風水害想定)を入居者も参加して実施している。隣接病院との合同訓練も実施し連携を図っている。「台風上陸・接近時における基本確認事項」も作成し備えている。	年2回消防訓練を行っており、避難経路や消火器・非常食の確認、通報装置の操作確認等も行っている。近年入居者の高齢化もあり全員での訓練は難しくなってきたが、職員間で状況を共有している。台風が予想される際も早めの対策を心掛け備えている。	

グループホームサンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助・入浴介助・オムツ交換時等は声掛けの仕方・声のトーンに十分配慮し、誇りやプライバシーを損ねない様に対応している。入居者様一人一人に合わせた言葉かけを行う様にしたり、一人の時間も持てる様に対応している。	日常の関わりやケアの場面で入居者それぞれを尊重し、言葉遣い等にも配慮している。体調不良や看取り期等、入居者の日々の状況で特に配慮が必要な際には入居者を尊重したケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が分かり易い言葉かけや対応を心がけている。入居者様の関心事や要望を見極め自己決定が出来る様な場面作りに努めている。又、自己決定が困難な入居者様へはこれ迄の性格や好み等を考慮しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、入居者様のその日の体調・気持ちを優先している。ここでも安心して生活してもらえる様に工夫しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択が出来る方には選んでもらっている。選択が困難な方は、これ迄の好み等を考慮して、一人ひとりに合った支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様それぞれに合った食事形態や食感で提供している。時には、希望されるお寿司を注文する等柔軟に対応し、食事を楽しんで頂ける様に支援している。	法人の厨房で作られた食事は入居者それぞれに合わせた形態で提供しており、おやつは事業所での手作りも見られる。法人では毎月栄養会議が開催されており、事業所の入居者それぞれの状態も共有している。事業所では「食」も楽しみという考えのもと、時には外食(持ち帰り)等も取入れ、趣向を凝らしている。	法人厨房で作られた食事ではありますが、季節を感じる事ができる食材の使用や、行事に合わせた献立等、事業所からの希望も取り入れられ、細かな対応がされている様子が聞かれました。高齢化もあり、食事の準備等への関わりが難しい状況もあるようですが、出来るだけの関わりが継続されることに期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で栄養管理されている。毎回食事と水分摂取量を観察記録している。又、入居者様の状態によっては定時以外に提供、食事摂取状態の悪い方へは管理栄養士と相談の上、高カロリーゼリーを付ける等の工夫をしながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きが出来る入居者様へは声掛けを、介助が必要な方へは職員の介助のもと口腔ケアを実施。義歯を使用されている方は、夜間は外して洗浄液につけている。治療が必要な場合は歯科往診が受けられる体制を整えている。		

グループホームサンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて全入居者様の排泄を記録し、排泄状況の把握に努めている。出来る限りトイレでの排泄を促しており、オムツ使用の方でも状況を見てトイレへ介助し排泄を促している。	入居者それぞれの状況に合わせ、パットやおむつも使用しながら、出来るだけ声掛け誘導等でトイレでの排せつを促している。トイレ利用時にもプライバシーに配慮し、職員の確認が必要な場合には入居者の意向を大切にケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳や白湯を提供したり、運動(体操・歩行・起立運動等)、腹部マッサージ等を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴を予定しているが、入居者様の希望や身体状況・汚染等その時の状況に合わせて実施している。	週2～3回を基本とし、入居者の希望や当日の状況で午前・午後ともに利用できる。入居者の希望があれば個々の理美容品を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操等を行い日中の活動性を高め生活リズムを整える様に努めている。又、入居者様の身体状況により、午前・午後と臥床時間を設けたり、思いを尊重して自室で過ごされる時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服紹介ファイルで、薬の効用や副作用を確認出来る様にしている。服薬に関しては4重チェックを実施し誤薬防止に努めている。又、主治医へも服用後の体調の変化等を報告し連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの出来る事・出来ない事を把握し、洗濯物干し、畳み等役割の支援を行っている。又、毎月の行事予定を掲示し楽しみを持ってもらえる様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス肺炎の影響で商業施設等への外出は控えているが、施設周辺等の散歩を行う等し気分転換や外の空気や季節を感じられる様に支援している。	感染症対策の面から買い物等への外出は難しい状況であるが、敷地内の散歩や隣接する法人医院の訪問等、外出する機会を持っている。事業所は2階ではあるが、ベランダで鉢植えの花を楽しむ等、外気を感じることができる。	

グループホームサンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族より、お小遣いとして預かり、職員管理で金庫内に保管している。外出時等、必要な時はすぐに使える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの要望が聞かれる際は、電話をかけたり、御家族からの電話への取り次ぎを行いやりとりが出来る様にしている。又、入居者様宛に手紙等が届いた時は、本人へ届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファコーナーや畳コーナーがあり、入居者様の気分や活動の目的により使用している。フロアは、季節が感じられるように壁飾りや吊るし飾りを行い、居心地よく過ごして頂ける様に工夫している。	季節を感じる折り紙や布飾り等、温かみを感じる手作りの品が見られる。リビングでは室内を歩く入居者の姿があり、安全にも配慮している。事業所入口のソファでは日常的にくつろぐ入居者の姿も見られる。温湿度、空気清浄にも配慮され、安心・清潔を感じる事が出来るスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナー・リビング・畳コーナーがあり、一日の時間の中で好みの場所でテレビを見たり、入居者様同士で会話を楽しまれたりしている。居室で一人趣味を楽しまれたり、読書をされたりと自由に好みの場で過ごして頂ける様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋間・和室の2タイプがあり、写真・塗り絵・思いでの品やテレビ等を配置、居心地の良く安心して過ごして頂けるように工夫している。	和・洋タイプの居室には洗面台と収納が完備されており、掃除も行き届いている。これまでの生活状況や暮らしぶりを感じることができる人形がおかれていたり、部屋入口にはそれぞれ違う柄ののれんを掛けたりと、プライバシーへの配慮と目印を兼ねた工夫もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口からホール全体が見渡せ、トイレ・浴室・居室が分かり易い様に、入居者様が好まれる物を目印に飾ったり、職員手作りののれん等で視覚に訴え安全に自立した生活が送れる様に工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所 サンライズ楠野グループホーム

作成日 令和3年 10月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を活かした取り組み	書面での送付で行ってきたが、今後はオンライン等も活用して開催の工夫をする。	メールや書面だけでなく、Zoomを用いた会議等呼びかけ開催したい。	12か月
2	6	身体拘束をしないケアの実践	今後も定期的に勉強会を行い、職員一人ひとりの意識づけを行う。	身体拘束は虐待という認識のもと日頃のケアにあたる。随時、動画視聴等も取り入れ勉強会を開催し常に意識づけを行う。	12か月
3	10	運営に関する利用者、家族等意見の反映	感染対策を行いながら出来る限り御家族の面会を受け入れ、意見・気付き・思いを聴き運営に反映させる。	感染対策を徹底しながら家族の面会の実施。広報紙の発送と電話連絡等行い日頃から思いを伝え易い環境をつくる。	12ヶ月
4	40	食事を楽しむことのできる支援	入居者様の出来る事、出来ない事を把握し能力に応じたお手伝いをして頂く。	食べる楽しみと同様に、盛り付けや配膳・下膳のお手伝い等の役割を持ち食事の準備の所から楽しみある時間をつくる。	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。